

講演会型



No. 2

尾木ママ子育て相談会（家庭教育学級）

教育評論家 尾木 直樹氏（尾木ママ）を可児市いじめ防止専門委員会の特別顧問に招聘したのは平成24年のこと。この間、毎年「学校訪問」「講演会」「子育て相談会」等を実施し、児童・生徒、保護者、教育関係者の思いに寄り添った的確なアドバイスをいただきました。

あなたが今悩んでいることを一人で抱え込まず、尾木ママに問うてみましょう。心が晴れ、気持ちが軽くなること間違いなし！



R6. 6. 24 (月) 13:00~14:30



参加者 保護者約110名 市職員10名 可児市文化創造センターala 小劇場にて

講師：尾木 直樹氏 可児市いじめ防止専門委員会特別顧問

この講座は、可児市内の家庭教育学級生、PTA 本部役員さんを対象に開催しています。今年度は、土田小・兼山小・西可児中が、家庭教育学級に活用しておられます。加えて各校より、多数の役員さんが参加されました。



尾木ママの 子育て相談会

可児市いじめ防止専門委員会特別顧問
尾木直樹さん（尾木ママ）を
迎えて、子育て相談会を開催します。
家庭教育学級リーダーが代表で質問し、
尾木ママが直接お答えします！

「尾木ママ」
「は～い！」
ハイタッチで
入場！



- Q1 わが子は、切り替えができなくてすごく泣いてしまう。「大丈夫だよ」と言ってもだめ。
A このようなケースは、男の子に多い。自己肯定感を高める声掛けをすることが大切。褒めたり認めたり、声に出して伝える。他人との比較はしない。するなら個人の過去からの成長を比べ、「できるようになったね」と伝える。
- Q2 外出先で、「待って」と言っても勝手に行ってしまう。防犯の観点からも心配。
A 発達段階の特性もある。瞬間の声掛けは難しい。「～したほうがいい」ということを歩きながらゆっくり伝える。「駄目」でなく、ちょっとでもできたら褒める。
- Q3 ユーチューブやゲームの終わらせ方。
A ゲームは、依存症になってしまう。コントロール力がなくなるように作られている。アメリカでは「20.20.20」というルールがある。20分したら20秒休み、20フィート（6M）くらい先を見つめる。参考にしてみてください。
- Q4 うちの子は、何度言ってもいけないことを繰り返してしまう。
A 叱れていないのでは。叱る≠怒る。叱るというのは、理性的・理知的行為。なぜそのことがいけないか説明する。
- Q5 3人兄弟の真ん中の男の子がよく妹の面倒を見てくれるが、最後には喧嘩になってしまう。
A 親の代わりに役立っているということは、やめた方がよい。お姉ちゃんだから、お兄ちゃんだからというのはよくない。
- Q6 11歳の男の子のイライラとどうつき合ったらよいか。
A 自分で自分をコントロールできない。アンガーマネジメントを教える。「6つ数えると落ち着く」「部屋を出る、場所を離れる。」怒りの見方を変えるように。
- Q7 部活動をやめたいといった時、どのように対処したらよいか。
A 「どうしたの？」と聞いてみる。まずは、相槌を打ち、共感。海外はどうなっているかグローバルな視点で状況を見るのもよい。気持ちも楽になる。
- Q8 思春期に入る子のコミュニケーション能力はどうしたら伸びるか？
A 話し上手は聞き上手。子どもの話をしっかり聞いてあげてほしい。中学生であれば、自己決定力も高めてやりたい。「あなたはどうしたい？どう思うの？」と問う。親は、自己決定をサポートする。

子育てサロン型



No. 3

美濃加茂市 乳幼児学級（さくらんぼ学級）

多胎児の子育てについて

多胎児を育てているお父さん、お母さん。仲間と集い、わからない事、困っている事を相談し合いませんか？多胎児ならではの悩み、よりよい対処方法等、子育てのヒントがたくさん見つかることでしょう。 R6. 6. 25（火）10:00～11:30

美濃加茂市子育て支援センター ほたるの広場にて



参加者 親子6組（20名）・亀井市議会議員さん・先輩ママさん1名・市職員2名

講師：野村 万里子 氏（特定非営利活動法人 んご多胎ネット理事・事業部長）



ご自身も、男の子と女の子の双子の母親であり、お子さんが小さい時は、4世代家族の中で子育てをした経験をもつ野村氏のお話で学級が始まりました。

その後、「何か困っていることはありませんか？」「離乳食や買い物、緊急の用事が出来た時、どんなふうに対応していますか？」と話題を広げ、参加者とのやりとりの中で子育てのヒントをたくさんいただきました。

地域の市議会議員・亀井 滋昭様は、この学級に理解を示してくださっています。この日も、赤ちゃんをずっと抱っこし、活動を見守ってくださいました。双子を育てた先輩ママさんも来られ、声をかけてくださいました。

- 講話には、長い目で見た時の子育てのヒントや親への励ましがいっぱい！
- 仲間は大事です。私も双子の母親です。仲間につながりましょう。
 - 双子は他人からお互いを比較されることを嫌がります。
 - 双子同士は、つながりが強いものです。双子の間には、親も入れないことがあります。
 - 習い事は、お金も時間にも限度があるため、子どもが幼い頃は同じものに通わせていました。小学校に入り興味・関心が広がってきたら、相談するとよいでしょう。
 - 双子が離れる時間をもつようになるのは進学がきっかけになりますが、学校は違って家では一緒に過ごしています。特に同性同士は、休日のお出かけ（買い物）も一緒に行きます。
 - 子ども達自身も、双子を育てる親の頑張り気づき、子育ての大変さを理解しつつ育っていきます。

（ぎふ多胎ネット「子育てサミット」の講話より抜粋）



【さくらんぼ学級】とは…

乳幼児の中でも、多胎児をもつ家庭を対象にした学級です。現在、市内の対象家庭は、20件ほどです。他の市町村からの参加も可にしているため、可茂地区全体の多胎児家庭が集う場にもなっています。

この日、両親揃っての参加は2組ありました。あるお父さんは、「今日は、仕事が午後からなので来ました。」と言われました。「お話しできてよかった。」「来月もまた来ます。」と喜んで帰って行かれるお母さん達もおられました。



講演会型 + 体験活動参加型



No. 4

ふれあい人権子育て講演会（御嵩町家庭教育学級合同）



花育ってなあに？

毎日の視点を変える 子育て講演 & 楽しく花を生けるワークショップ

「花って人間みたい！ 自分からは動けない個性豊かな花たちが教えてくれる楽しく生きるコツ。」

R6. 6. 29（土）13:30～15:00 御嵩町中公民館にて
参加者 保護者（約50名）・教育長さん・課長さん・町職員（6名）

講師：中嶋 よ志江 氏（花のおくりものディマーシュ）

この講演会は、御嵩町の0歳児学級、乳幼児期学級、幼稚園・保育園・小学校・中学校の家庭教育学級の皆さんを対象に開催しておられます。町民の方を含め、御嵩町婦人の会の方々、御嵩町人権擁護委員の皆様も参加されました。

次 第

- ・ごあいさつ
（講師紹介）
- ・教育長様より
- ・ご講話 &
生け花体験
- ・お礼の言葉
（保護者代表）
司会進行やお礼の言葉等は、参加園・学校の代表保護者さんがされました。

花育ってなあに？

- ・**道徳心を育む**
先生や友達との挨拶などを通して、良好な仲間関係を持ち、自分と他者との在り方を学ぶ。
- ・**やさしい気持ちを育む**
命あるものに触れる感動を体験し、命あるものへのやさしい気持ちをもつことができる。
- ・**美しい心を育む** いいところ探し。
- ・**豊かな想像力を育む**
植物を素材として創作の喜びを感じ豊かな想像力を身に付ける。
- ・**集中力を高める**
自分の居場所づくりに余念のない花たち。生まれた場所で一生懸命。きれいな水で長生き。



花と子育てをつなげて考えたことがなく、今回のお話を聞いて、そのような考えもあるのだなと思いました。今までいろいろな経験をしてきた先生だからこそのお話の内容で、本当に来てよかったと思いました。 30代

花育とは何だろうと思いつつも、お花が好きなので参加を決めました。「私は私」「自分を知ること」ということが心に残りました。変わることがたくさんある年齢なので、いろいろな人の意見を聞きながらも、自分をしっかりもって子育て、自分育てをしていきたいと思えます。（参加費、魅力的でした。） 30代女性

花を生ける時、集中して行えました。子ども達の顔が浮かび、テーブルでご飯を食べているところに飾りたいと思いつきながら作りました。私の今の幸せは、やはり一緒に暮らしている夫と子ども2人で、それが全てなのだと思います。贅沢すぎる幸せです。 30代女性

先生のお話を聞いて祖母を思い出しました。『物欲では幸せになれない』にととても共感しました。実は、最近、夫婦で息子を叱ることがあり、自分自身うつになっていたと思えます。苦しい時、お花を買って、幸せ気分をチャージしていました。先生のご苦労を聞いて、自分も頑張ろうと思えました。またお花を買いに伺いたと思います。 30代女性

お話を聞き、自分も明るい服を着ようと思えました。いつも白か黒かのオセロになってしまっているので、違う色も着て、自分の気持ちも明るくし、この先も元気に、子育ても仕事も頑張っていきたいと思えました。お花をいけることも楽しくて、無縁だったお花に興味をもちました。お花を調べてみようと思えました。 30代女性

たまには花に集中して触れ、花を生けることを介して先生の様々な話を聞く。こうした時間、ゆとりの心が子育て期にこそ、見過ごされがちだが、必要だと思った。親が心豊かにすることは、必ず子育てによい影響があると思う。 60代女性